

日本基督教団 東中国教区ニュース

NEWS

東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒770-0085
倉敷市鶴形一五五
倉敷キリスト会館内
TEL 086-421-2780

説教「神さまが共にえられる」

・天城教会・

牧師 田中寿明

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共にえられる」という意味である。」

マタイによる福音書一章二十三節



田中寿明 牧師

ク

クリスマスおめでとうございます。クリスマスが、イエス様の誕生をお祝いする祭りとして、世界中で定着しているように思います。

*

マ

タイによる福音書のイエス様の誕生のプロセスを読んでみますと、その経過を味わっているヨセフとマリアには喜びがありません。特にヨセフにとってそうでした。

*

あ

る高校生が残した文章を紹介します。

『いい子になりたい。そう願っていた。そう願われていた。いい子になる。それが正しいことだと思っていた。いい子のつもりで生きて来た一六年。しかし、私は分かっていた。悪い子の自分にはだれにも見せていないと。私の得意なことは、言い訳をすること、嘘をつくこと、人を裁くこと、そしてすべてをごまかすこと。いつの間にか、私は、自分の中に悪い子がいることを忘れた。私の中で声が聞こえる。もういいよ。助けてよ。認めてよ。もっと大事にしてよ。そう叫んでいる。聞きたくない。見たくない。逃げたい。そうやって耳をふさぎ、目を閉じる。私はいつになったら、この叫んでいる声を聞いてあげることができるのだろう。いい子になるためではなく、「私」になるために。もう一度、「私」と出会いたい。』

目次

説教「神さまが共にえられる」	1
伝道協議会「〇一七開催」	2
東中国教区・平和講演会「平和へのキーワード・不屈」	3
第九回「礼拝音楽の集い」報告「山陰ファミリーキャンプ」報告	4
「教会青年交流ワークキャンプ」報告	5
「教師と信徒の合同研修会」報告	6
教会紹介 岡山教会	7
「こんには」のお部屋・編集後記	8

ヨ

セフもマリアが身ごもったことを知った時、「いい子」になりたいと思って、律法に従い、正しく生きようとして来たかも知れません。マリアの妊娠は、簡単には答えの出ない問題、聞きたくない、見たくない、逃げ出したい、そして嘘をついて誤魔化してしまいたい問題だったに違いありません。

*

け

れども、それは「決心」という名の嘘で誤魔化そうとしても誤魔化せない、逃げようとしても逃げられない問題でした。そして、ヨセフは逃げませんでした。誤魔化しませんでした。いや、誤魔化せませんでした。だからこそ、決心したと思ってもお、迷い、苦しんだのです。向き合ったのです。その様なヨセフに対して、神様は、天使を遣わしてください、言葉をかけて下さったのです。

*

迷

い苦しみながら歩いて行くときに、私たちはきつと神様と出会うのです。「神は我々と共にえられる」と約束してくださる神様と出会うのです。そして、「私」と出会うのだと思うのです。

*

苦

しみ悩みの中に、「神は我々と共にえられる」(二三節)という喜びと平安がもたらされる。それがクリスマスです。クリスマスの本当の喜びです。

伝道協議会二〇一七開催

〈準備した立場からの報告〉

伝道委員長 中井 大介

(倉敷教会)



伝道委員長 開会の挨拶

伝道協議会が十月七日(土) 岡山教会、十一月十一日(土) 上井教会において開催されました。隔年開催予定となっている協議会は教区の諸教会がキリスト教宣教のために知恵を共有し、互いに元気になるためのプログラムでもあります。このたびは著書『教会をもつ

と行きやすくする本』を執筆された教会ウォッチャーの八木谷涼子さんと、キリスト新聞社社長の松谷信司さんの二人を招いて「教会をもつと行きやすくするために」と題した講演会となりました。教会生活が長くなってくると自分たちの宣教の内容を第三者視点から吟味できなくなってきました。その状態は、いつの間にか「敷居の高い、独特のしきたりを持つ空間」としての教会をつくり上げてしまうという問題意識を持つお二方から、鋭い提言をユーモラスな切り口から提供して頂きました。教区のみならずにおきましてはお祈りと積極的な参加を頂きましたことを感謝し報告いたします。

〈即効性がありました!〉

旭東教会 牧師 森 言一郎

わたしは岡山教会を会場に行われた日に旭東教会の方たち四名と共に参加しました。このたびの協議会、各個教会における伝道のための〈具体案〉を考えるきっかけを頂けるものとして、実に有意義な時間だったと感謝しています。と申しますのも、伝道協議会翌日の日曜日の午後、定例役員会の中で、参加された役員さんたちとわたしは、協議会で示され、考えさせられた具体的な課題の改善案を考え始めましょう、と提案できたからです。

例えば、礼拝後のお茶の準備には「カフェインレスの飲み物」を準備するように配慮を始めることになりました。また、「新来会者カード」

の内容についても、幾つか改善すべき点が見つかりました。さらに、「教会前の集会案内版」についても、教会の門を初めてたたこうとする方々への親切さが足りなかった点を認識し、改めるきっかけを得ることが出来たのです。当日は思っていたよりも参加者が少なく、もったいないなあと感じました。今後、このような会では、少しでも多くの教区内の教会の方々と共に過ごせるようになると嬉しいなあと考えています。



講演中の松谷信司さん (キリスト新聞社 社長)

東中国教区・平和講演会

「平和へのキーワード・不屈」

二〇一七年十月二十二日

金井 創

(沖縄教区・佐敷教会牧師)



講演中の金井創先生

国土面積0.6%の土地に在日米軍基地の70%が集中する沖縄で、20年前から北部・辺野古の海を埋め立てて新たな基地を作る計画が進められてきました。県民の八割を越える人が反対しているにもかかわらず、この工事を政府は力ずくで推し進めようとしています。特に二〇一四年からは過剰に暴力的な警備、不当な逮捕が日常的な光景となっていました、今も海の破壊は速度を上げています。

この工事に普通の市民が声を上げ、座り込み、反対の意志を表してきましたが、過激なプロの活動家であるとか、日当をもらって

いるとか、様々なデマが絶えません。しかし、このたび県民の生活をかけての取り組みが二つの国際的な平和賞を受賞しました。一つはドイツ・ベルリンに本部を置く国際平和団体「国際平和ビュロー」が十一月二十四日、今年のショーン・マクブライド平和賞の授賞式を行い、沖縄の新基地建設に反対する政党や団体でつくる「オール沖縄会議」に授与しました。この平和賞は、国際的な人権組織アムネスティ・インターナショナルの創立に関わり、長く代表も務めた故ショーン・マクブライド氏の功績を称えて一九九二年に創設され、平和や軍縮などの分野で活躍した個人・団体に贈られてきました。日本の団体としてはこれまでに日本原水爆被害者団体協議会、平和市長会議(現・平和首長会議)が受賞しています。

また、もう一つは基地建設に反対し、海上やキャンプ・シュワブゲート前での抗議・監視行動に取り組む「ヘリ基地反対協」に韓国のカトリック団体の「正義平和賞」受賞が決まりました。

これは、一九七〇年代の韓国民民主化運動に関わったカトリック司教、故・池学淳(チ・ハクスン)氏をたたえ一九九七年に設立された財団法人「チ・ハクスン正義平和基金」の第二十一回チ・ハクスン正義

平和賞です。

同賞は国家の民主化と改革、人類の平和、国際平和秩序のための連帯活動の先頭に立ってきた個人や団体に与えられる賞で、日本の団体が受賞するのは初めてのことです。

このようにダブル受賞と言ってもよいタイミングで二つの国際的な平和賞をいただいたことは、国内での心無いデマにもかかわらず、沖縄における非暴力抵抗の取り組みを世界が認め評価したということだと思います。



平和講演会当日の様子 岡山教会

第九回「礼拝音楽の集い」報告

和気教会 牧師 延藤好英

九月二十三日(土) 秋分の日、午前十時三〇分から、津山教会を会場に、第九回「礼拝音楽の集い」が開催された。講師は、香川県にある善通寺教会のオルガニスト中村証二先生。主催は教区宣教部教育委員会。参加者は、十五教会二十八名であった。

そもそもこの研修会は、九年前に、わたし(延藤)が、教会のオルガニストの研修の必要性を感じていたところへ、当時鴨方教会の会員であった浅野成子さんご夫妻が訪ねてくださったことから始まった。浅野さんご夫妻は、和気富士登山の帰りに和気教会に寄ってくださった。教会をご覧になり、リードオルガンの話になり、わたしの思いを伝えた。

①教会のオルガニストは、ピアノが弾けるからとオルガニストに任命されるケースが多い。しかしリードオルガンの知識や技術を学ばないままに奏楽をしている人が多いのではないかと。それでいて、礼拝の奏楽という重責を担わされている。だからリードオルガンについての研修が必要である。②各教会にオルガニストは一人いるかないかである。オルガニストは孤独である。従つて、オルガニスト同士の交流が必要である。③リードオルガンはピアノとは違う。その独特の奏法について学



中村証二先生

て、オルガニスト同士の交流が必要である。③リードオルガンはピアノとは違う。その独特の奏法について学

ぶ必要がある。

そこで紹介されたのが、中村証二先生である。第一回は、岡山県東部地区主催で、会場は和気教会であった。プログラムは、午前中が講師の講演。内容は、リードオルガンの仕組みやストップの使い方、ペダルの踏み方など。また、礼拝音楽の歴史などを、時折演奏を交えてお話しくださった。それから昼食と互いの紹介。オルガニスト同士の交流の時である。午後は、公開個人レッスン。これが、レッスンを受ける本人だけでなく、周りで見聞きしている参加者にも大いに勉強になるのである。このプログラム構成は毎回変わらな



第九回「礼拝音楽の集い」参加者一同

「山陰ファミリリーキャンプ」報告

境港教会 牧師 中道祐太

教会学校のキャンプといえは何十回と行う準備・二〇〜三〇ページは当たり前のキャンプブック・参加者用とスタッフ用と分けて作られていた五分刻みのスケジュールが当然のように思えていた。むしろそこまですらないとキャンプというものは円滑に進むことが出来ないと信じていた。しかしながらこの山陰ファミリリーキャンプというのはその真逆のキャンプである。誰がどのように動き、何を用意するのか、子どもたちの動線などは事細かくに決めることはほとんどない。

今年も蒜山バイブルハウスにてキャンプを執り行うことができた。大人は一九名・子ども九名、計二十八名の参加者があった。また今回は広島流川教会のオルガニストである玉理照子さんを講師として迎え、子どもたちと一緒にさんびかを共に賛美する時間を守ることができた。

キャンプの二日目に初めて参加した方から「これでもキャンプって回るんだね」という声をかけられた。もつともな驚きであると思う。この山陰ファミリリーキャンプは穏やかでのんびりしていて、小・中学校の自然学校で経験したどこかスケジュールと円滑さに支配されているピリピリとした空気は一切なかった。

このキャンプでは大人が子どもたちを絶えず導くことはない。子どもたちが自発的に料理の準備や片付けをしたり、一人では出来ない子がいれば手伝い、時にはマリアのようにキャンプを楽しんでいるスタッフや他の大人に指示をする。もち

ろんそこにはマルタのように色々なことに気づきテキパキと子どもたちをサポートし、動き回っている人たちがいるからこそでもある。

今回のキャンプからは大人向けのリトリートの時間もあり、大人にも大人だけのゆっくりとした時間があつた。

今年のキャンプも大人子どもともに大きなケガもなく無事に過ごすことが出来ました。皆様がこの山陰ファミリーキャンプを覚えてお祈りとお支えくださったためと思っています。そして、何より神様のお守りのおかげです。感謝を持って報告させていただきます。



山陰ファミリーキャンプ参加者一同

「教会青年交流ワークキャンプ」報告

岡山教会 伝道師 伊勢 希

台風の為、延期となった「教会青年交流ワークキャンプ」が十一月二日(木)～三日(金)に行われ、総勢一七名の参加者となりました。

一日目は久世教会で礼拝を守り、夜は久世教会の裏の敷地をお借りしバーベキュー。この時、最近久世教会の礼拝に來られているジャマイカの方も参加して下さり大いに盛り上がりました。聖書にはイエスが色々な人たちと共にご飯を食べた記述がたくさんありますが、何故イエスは一緒に食卓を囲むことを大事にしたのか、その意味を実感させてもらう豊かな時でした。

二日目は半日かけてワーク。ヨルダン会の方たちの指示に従い勝山教会の玄関掃除、砂利を入れての整地、竹やぶを伐採しトラックへ搬出など。また今回は教会の隣に住まわれている方のお庭の植木も伐採しました。文字に起こすと一瞬ですが、実際は結構な重労働でした。しかしこの重労働のおかげで参加者たちに一体感が芽生え、ま



切っても 切っても

たワーク後には綺麗になった敷地を見て格別な充実感と満足感が与えられました。

この教区に來させて頂いた時に「この教区は一八の教区の中で二番目に小さい教区だ」と聞きました。しかしそんな小ささなど関係なく、逆に小さいからこそ、たくさんの人たちが集まり一人でやるよりもっと凄いいことが出来るのだということを教えてくれたワークとなりました。

昨今では「伝道」という言葉が至る所で聞かれます。今回、教会のお隣の方はノンクリスチャンの方でした。机上において伝道を話し合う事はもちろん大事なことでと思います。しかし、その方の笑顔と喜びと感謝の言葉を聞いていると、やはり現場において伝道というものとはなされていくのだということを思わされました。今回のワークは、たくさんの方にここに教会があることを知ってもらい、キリスト教を知らない方たちが持つ「キリスト者とは一体どんな人間なのか」という問いに対し、ワークをするその姿によって示すことができたのではないかと感じております。



★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時～午後九時
電話番号 ○九〇―一三三〇―八七三〇

「教師と信徒の合同研修会」報告

教師部委員 中道祐太
(境港教会)



越川弘英 先生

十一月二八日に岡山教会を会場とし、同志社大学キリスト教文化センターの越川弘英先生をお招きして「今、もう一度、礼拝を考える」と題して「教師と信徒の合同研修会」の時をもった。前回の研修会では大雪のため鳥取県側の参加者が集うことがほとんど出来なかった。けれども、今回は開催時期を変更したことによって鳥取側の参加者が集うことができ、三十三名の参加者が得られた。

一日目は越川先生自身が『信仰生活の手引き 礼拝』で書かれた内容をわかりやすくまとめくださり、日本基督教団のみならず、カトリック教会や聖公会等の他教派の礼拝の構成なども織り交ぜながら、日本基督教団の礼拝の特徴や可能性に焦点を置き「なぜ礼拝は大切なのか」教育・牧会・宣教の関わり」についてお話していただいた。

二日目は会衆者がどのように礼拝に参加してきたのかということを初期教会の時代から現代の教会の歴史を通し「会衆参与の視点から見た礼拝の歴史」について話してくださいました。

二日間の講演を通し、越川先生は、歴史が変わるときに教会も礼拝もその在り方が変わってきたことを話され、また「私たちも今、自分たちの教会や礼拝を見直してもいいのではないだろうか」という問いかけがあった。もちろん今の状態が「イケナイ」という意味ではない。今までの歴史や伝統から今の姿が形成されていることを話されていた。けれども、越川先生は私たちには可能性があり、今後の新たな可能性を見つ

めていく上でそれが必要であるのではという将来への希望を語られた。

講演を受けて今後、私たちも歴史の傍観者として留まるのではなく、神様が私たちに働きかけている福音の力を信頼し、歴史を作りあげて進んでいく必要があるように思わされた。

今年も「教師と信徒の合同研修会」を開催することが出来たのも皆様が覚えてお祈りとお支えくださり、そして、何より神様のお守りのおかげです。感謝を持って報告させていただきます。



ニュース誌委員会より

★東中国教区のホームページを活用してください★

各委員会、各地区の集会のチラシを「PDF版」にして下さい。

ご案内のスペースを提供いたします。

教会紹介

・岡山教会・

信徒 畑 起三郎



岡山教会 礼拝堂

一八八〇年（明治一三）岡山基督教会が設立され、今年で創立一二七周年を迎えました。一九四九年（昭和二四）新会堂の献堂式が挙行され、創立九十周年記念として現会堂建設、創立百周年記念として岡山教会百年史発刊と歩みが記されてきました。

教務方針としては、大塚忍牧師が信仰生活の土台として示される礼拝と聖書の学びを柱に集会や活動が企画されています。学びの場として、水曜日の午前の「学びと祈禱会」、出席できない方の為に夜の「聖書研究会」、テーマによる「キリスト教入門講座」、出席者が自由に話し合う「みんなで聖書に親しもう」、クリスマス・イースター前の「信仰講座」が実施されています。

また、その他の定期集会として「讃美歌を歌う会」、「新来者、求道者の会」、「学生会」、礼拝後にはロビーでお茶の会「ホットタイム」が持たれています。家庭集会も地区毎の交わりの場として開かれています。

テレフォンメッセージの発信も外に向けての働きと礼拝に出席できない方へのメッセージとして毎月更新されています。定例的な発行物としては、「月予定表」、役員会報告と牧師からのメッセージを記した「きょうかいだより」、年二回程度の会員の証し、委員会活動等をまとめた会誌「マナ」があります。これらを通して礼拝に出席できない方への繋がりをもつ働きとしています。

会堂も築後四十七年になり、耐震補強工事を実施しました。また、耐震工事に合わせて礼拝堂の照明もLEDに交換し、気持ちの上でも明るくなりました。

子どもの礼拝を中心とした第一礼拝を始めました。大人の方もどちらに出席してもよく聖餐式も同じように執行されています。

二年間伝道師不在でしたが、今年度から伊勢希伝道師をお迎えしました。牧師と共に牧会、若い人への伝道、教区への働き等伝道師の働きを充実させていくことを進められています。日曜日の朝、玄関のボードに描かれる季節の風物や虫たちのイラストが、「ここに教会があるよ」と呼びかけています。建物からの発信も町の中心部にある教会の大きな伝道の課題です。



岡山教会 外観

「こんにちは」のお部屋

「同宗連」をご存知ですか？

同宗連研修部会長 難波幸矢

十月二日、三日と第三一回岡山県同宗連部落解放講座で伊勢に行き、講演と神宮境内にある諸施設を見学して参りました。

同宗連は三〇近い宗教団体(宗派、教派を超えて)が加盟し、部落差別のない社会を目指してスタートした会です。キリスト教系ではナザレ



伊勢神宮での研修会にて

ンとバプテストの教会が入っています。

この会は狭山事件で犯人にされた部落出身の石川一雄さんの冤罪を晴らすところからスタートしました。ただ部落差別事件のみをテーマにするのではなく、差別全般にわたって学習や現地研修をするようになり、ハンセン病療養所の事についても数年に一回は研修を続けています。新しいお坊さんや宮司さんが出席されます。

今回の伊勢へは一四人が参加しました。講師は三重大学人文学部教授の塚本明先生で「近世伊勢神宮領の触穢観念、被差別民と『宗教』」と題して講演をいただきました。

近世の伊勢神宮と門前の宇治・山田に始まり、神社と触穢規定などについて話されましたが、「穢れ」と「清浄」対概念。清浄さを求め穢れを忌避することが神道の眼目の一つだと。それにしても伊勢神宮の広大な敷地を歩きつつ遷宮の説明を聞いたり、神宮を守っていくための組織の確かさには、そこで働く人々に至るまでの徹底さに驚きました。

教区事務所より その二

東中国教区事務所において、主に経理の仕事をしております井手幸一郎です。このような仕事をしておりますと、毎月の数字が間違いなく

把握できていれば、それで良しとしてしまいがちです。もちろんそれが一番重要なことではありますが、しばしばそれで安堵してしまうのです。

ここで把握できた数字が、適正なものなのか、しっかりと神様の御用に生かされたのか。そのようなことになかなか考えが至らず、日々の数字を追いかけるのが精一杯というのが、現実の姿です。

伝道資金が導入以降、教区会計のあり方にも何かと変化が訪れるなか、ここで扱っているものの原資は、すべて教会員一人一人の献金に基づくものであることを忘れることなく、今後とも勤務に励みたいと思います。何かと至らぬこともあり、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、その都度ご助言、ご指摘をいただければ幸いです。



井手幸一郎さん

編集後記

今号も多くの皆さまのご協力により発行することが出来ました。東中国教区の「呼吸」・「息」が少しでも届けば嬉しいです。(G記)